

CentreCOM[®] **8224XL**

ハードウェア設置マニュアル

ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright アライドテレシス株式会社 1999

商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

安全のために



必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

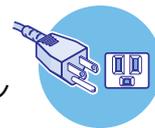
火災や感電の原因となります。
本製品は AC100 - 240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。
接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



3ピンコンセント

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜け

電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

光源をのぞきこまない

目に障害が発生する場合があります。

光ファイバーケーブルのコネクタ、ケーブルの断面、製品本体のコネクタなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因となります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
(化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。)



シンナー
類不可

このマニュアルについて

このたびは、CentreCOM 8224XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、10Mbps と 100Mbps を自動認識するポートを 24 ポート、拡張モジュール用スロットを 2 つ装備する、ファーストイーサネット・インテリジェント・スイッチです。

2 つの拡張モジュール用スロットにはオプションとして、100BASE-FX ポート × 2、10BASE-T/100BASE-TX ポート × 4 の拡張モジュールが実装可能となっています。

SNMP(簡易ネットワーク管理プロトコル)による管理が可能な SNMP エージェントにより、SNMP マネージャから各種情報を監視・設定することができます。また、内蔵されたソフトウェアによって、Telnet やターミナルポートから簡単な設定や診断も可能です。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルバージョン

1999 年 10 月 Rev.A 初版

マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

1 はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、LED表示について説明しています。

2 設置と接続

本製品を設置するときの注意事項、および設置方法と機器の接続について説明しています。

3 付録

トラブルシューティング、オプションの拡張モジュールの仕様、拡張モジュールの装着手順、製品仕様について説明しています。

4 保証とユーザサポート

本製品の保証と、障害の際のユーザサポート、調査依頼書のご記入方法について説明しています。

目次

ご注意	iii
商標について	iii
電波障害自主規制について	iii
このマニュアルについて	vi
マニュアルの構成	vii
1 はじめに	1-1
1 梱包内容	1-2
2 特長	1-3
3 各部の名称と働き	1-4
前面	1-4
背面	1-6
側面	1-7
4 LED 表示	1-8
PORT ACTIVITY LED	1-8
STATUS LED	1-8
2 設置と接続	2-1
1 設置	2-2
設置場所	2-2
設置方法	2-2
2 接続	2-4
コンソールを接続する	2-4
起動と停止	2-6
3 付録	3-1
1 トラブルシューティング	3-2
セルフテストについて	3-2
トラブルと思ったら	3-3
2 拡張モジュール	3-5
AT-A17	3-5
AT-A18	3-6
3 拡張モジュールの装着手順	3-7
4 仕様	3-9
コネクタの仕様	3-9
ケーブル仕様	3-10
本製品の仕様	3-12

4	保証とユーザサポート	4-1
1	保証とユーザサポート	4-2
	保証	4-2
	ユーザサポート	4-2
2	調査依頼書のご記入にあたって	4-3
	使用しているハードウェア、ソフトウェアについて	4-3
	お問い合わせ内容について	4-3
	ネットワーク構成について	4-3
	調査依頼書 (CentreCOM 8224XL).....	4-5

1

はじめに

この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、LED表示について説明しています。

1 梱包内容

CentreCOM 8224XL 本体(1 台)

電源ケーブル(1 本)

ラック取付金具(2 個)

ラック取付金具用ネジ(6 個)

製品保証書(3 年保証)

お客様インフォメーション登録カード

オペレーションマニュアル

ハードウェア設置マニュアル(本書)

最初に梱包箱の中身を確認してください。

本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

2 特長

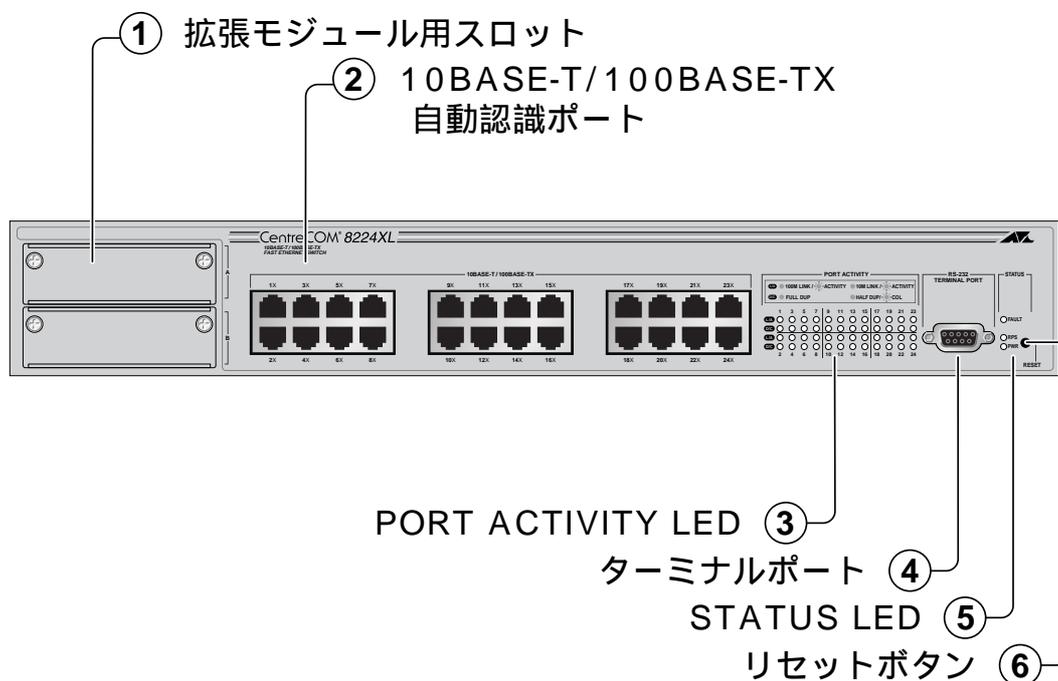
- 24 ポートの 10/100Mbps 自動認識ポートを搭載
- 拡張モジュール用スロットを 2 つ装備
- ポートごとに Auto negotiate/Full duplex/Half duplex の通信モードが設定可能
- IEEE 802.1Q 準拠のタグ VLAN 機能をサポート
- IGMP スヌーピング機能をサポート
- QoS 機能をサポート
- ポートランキング機能をサポート
- ポートミラーリング機能をサポート
- バックプレッシャー・フローコントロール機能をサポート
- 最大 12K 個の MAC アドレスを登録可能
- 信頼性の高いストア&フォワードのスイッチング方式
- RS-232 や Telnet で接続しているコンソールから内蔵ソフトウェアへのアクセスが可能
- SNMP エージェント機能による監視が可能
- RS-232 経由の XModem や TFTP によるソフトウェアのダウンロードが可能
- DNS のサポートによりホスト名によるアクセスが可能

3 各部の名称と働き

前面

1

はじめに



拡張モジュール用スロット

拡張モジュールを装着するためのスロットです。

 参照 3-5 ページ「2 拡張モジュール」

10BASE-T/100BASE-TX 自動認識ポート

10BASE-T、または100BASE-TXのUTPケーブルを接続するためのコネクタです。

このポートは、接続先の機器に応じて通信モードと通信速度(Full/Half duplex/10/100Mbps)を自動検出して、最適な状態で接続するAuto negotiateがデフォルトで設定されています。

ケーブルは10BASE-Tの場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ5のUTPケーブルを使用します。

PORT ACTIVITY LED

ポートと対向機器間の通信について以下の項目を表示するためのLEDインジケータです。

L/A(Link/Activitiy LED)

対向機器間とのリンク、トラフィックの有無、通信速度を表示します。

D/C(Duplex/Collision LED)

通信モード(Full Duplex/Half Duplex)、コリジョンの発生を表示します。

 1-8 ページ「4 LED表示」

(RS-232)ターミナルポート

本体とコンソールとを接続して、ソフトウェアを使用するためのコネクタです。コネクタは9ピンメスタイプです。ケーブルはRS-232ストレートケーブルを使用します。

STATUS LED

システムの状態をモニタするためのLEDインジケータです。

FAULT

本体、またはソフトウェアの故障、セルフテスト実行中、FLASH ROMに書き込み中であることを表します。

RPS(Redundant Power Supply)

リダントパワーサプライ(二重化電源装置)が本体に接続されているかを表示します。

(RPSはサポートされていないため常に消灯)

PWR

電源の供給状態を表します。

 1-8 ページ「4 LED表示」

リセットボタン

本体を再起動するためのボタンです。先の細い棒などでリセットボタンを押すと再起動し、本体のセルフテストを行います。



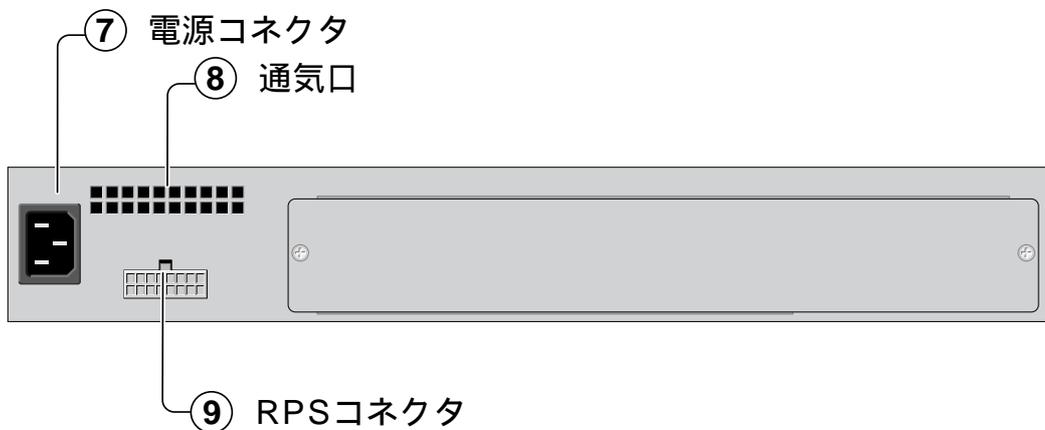
鋭利なもの(縫い針など)や通電性のある物で、リセットボタンを押さないでください。

3 各部の名称と働き

背面

1

はじめに



電源コネクタ

電源ケーブル(ソケット側)を接続するためのコネクタです。本製品はAC100-240Vで動作しますが、同梱の電源ケーブルはAC100 ~ 120V用ですのでご注意ください。

通気口

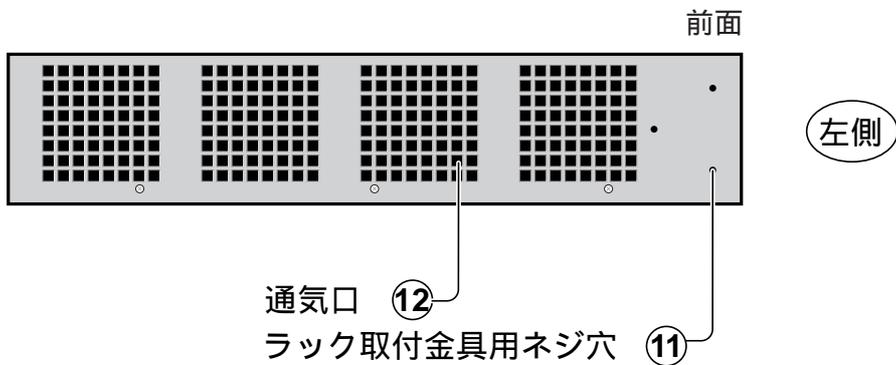
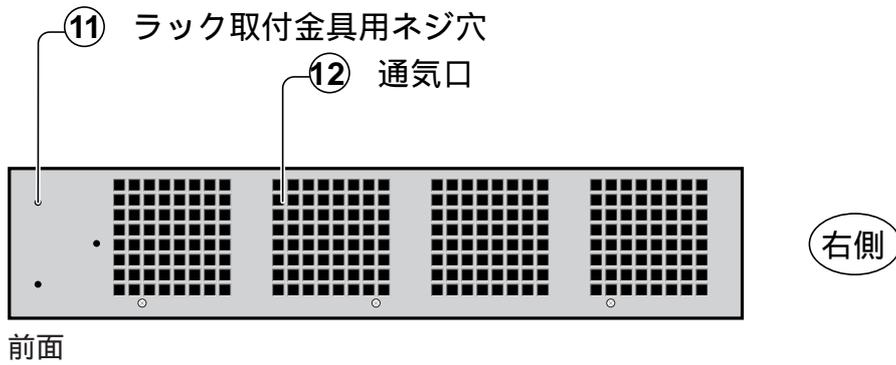
熱を逃がして、空気の循環をよくするための通気口です。

! 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

RPS(Redundant Power Supply)コネクタ

リダンダントパワーサプライ(二重化電源装置)を接続するコネクタです。RPSはサポートされていないのでご使用にならないでください。

側面



ラック取付金具用ネジ穴

同梱のラック取付金具を本体に取り付けるためのネジ穴です。

 2-3 ページ「19 インチラックへの取り付け」

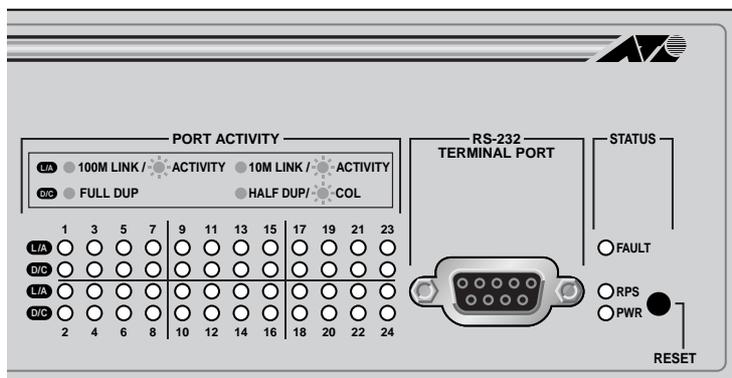
通気口

熱を逃がして、空気の循環をよくするための通気口です。

 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

4 LED 表示

本体前面には、スイッチ全体や各ポートの状態を示す LED ランプがついています。



PORT ACTIVITY LED

各ポートに2種類のLEDランプを配し、色・状態によって以下を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A (Link/Activity)	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットを送受信しています。
	-	消灯	リンクが確立されていません。
D/C (Duplex/Collision)	緑	点灯	Full duplexで通信しています。
	橙	点灯	Half duplexで通信しています。
		点滅	コリジョンが発生しています。
	-	消灯	リンクが確立されていません。

STATUS LED

以下の3種類LEDランプでシステム全体の状態を表します。

LED	状態	表示内容
FAULT (赤)	点灯	システム、または内蔵ソフトウェアが故障しています。
	点滅	セルフテスト実行中です。(起動時) FLASH ROMに書き込みを行っています。(運用時) XMODEM経由でファイルを転送中です。
	消灯	システムに異常はありません。
RPS (緑)	-	RPSはサポートされていないため常に消灯。
PWR (緑)	点灯	本体に電源が供給されています。
	消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。

2

設置と接続

この章では、本製品を設置するときの注意事項、および設置方法と機器の接続について説明しています。

1 設置

設置場所

本製品の設置や保守を始める前に、必ず iv ページの「安全のために」をよくお読みください。

設置場所については、次の点にご注意ください。

電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。

テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。

十分な換気ができるように、本体側面、および背面をふさがないように設置してください。

傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

本体の上に物を置かないでください。

直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

2

設置と接続

設置方法

設置方法には、EIA規格の標準ラックに取り付ける方法と、水平な場所に設置する方法があります。

▶ デスクトップなど水平な場所への設置

1. 本体背面と側面の通気口をふさぐものがなく、水平で安定した場所に設置します。
2. 電源ケーブルを接続し、本体に電源を投入します。接続が正しければ本体前面のPWR LED(緑)が点灯します。

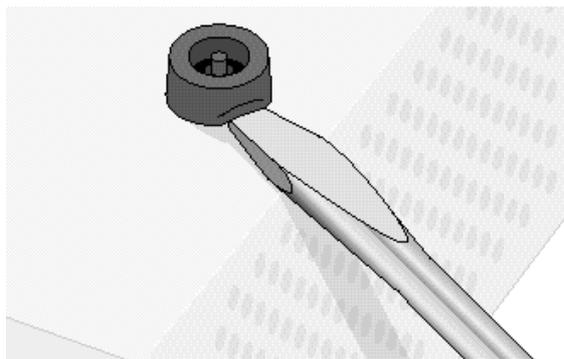
本製品には、あらかじめ底面の四隅にゴム足が取り付けられています。ゴム足は本体を固定し、衝撃を吸収するクッションの役目をしますので、本製品をデスクの上などに設置する場合は、必ずゴム足を使用します。

▶ 本製品を 19 インチラックに取り付ける場合は、ゴム足ははずしてください。

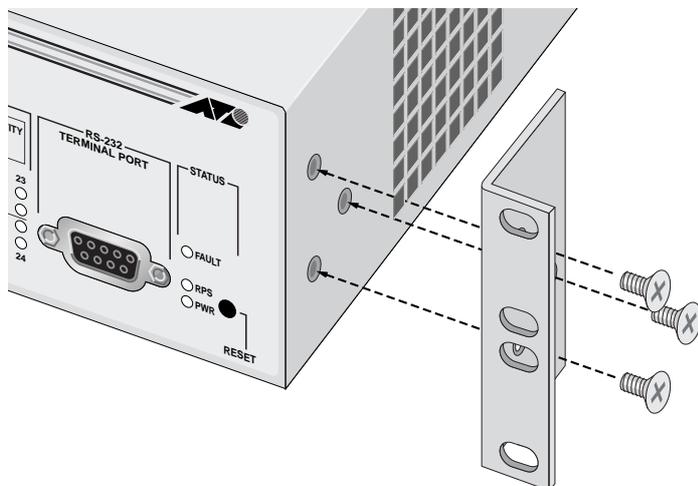
▶ 19 インチラックへの取り付け

同梱の取付金具を使用して、EIA 規格の 19 インチラックに取り付けることができます。

1. 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
2. 本体底面の四隅に取り付けられているゴム足をはずします。



3. 本体側面に取付金具を合わせ、取付金具用ネジで両側にしっかりと固定します。



4. 19 インチラックの希望する位置に本体を合わせて、ラックに付属しているネジでしっかりと固定します。このとき通気口がふさがらないようご注意ください。

⚠ 取付金具および取付金具用ネジは必ず同梱のものを使用し、19 インチラックに適切なネジで確実に固定してください。
固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。

5. 電源ケーブルを接続し、本体に電源を投入します。接続が正しければ本体前面の PWR LED (緑) が点灯します。

2 接続

コンソールを接続する

コンソールを使用して内蔵のソフトウェアにアクセスする場合は、RS-232ストレートケーブルで、本体前面ターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクタを接続します。

i ターミナルエミュレーションソフトの設定については、「オペレーションマニュアル」で説明します。

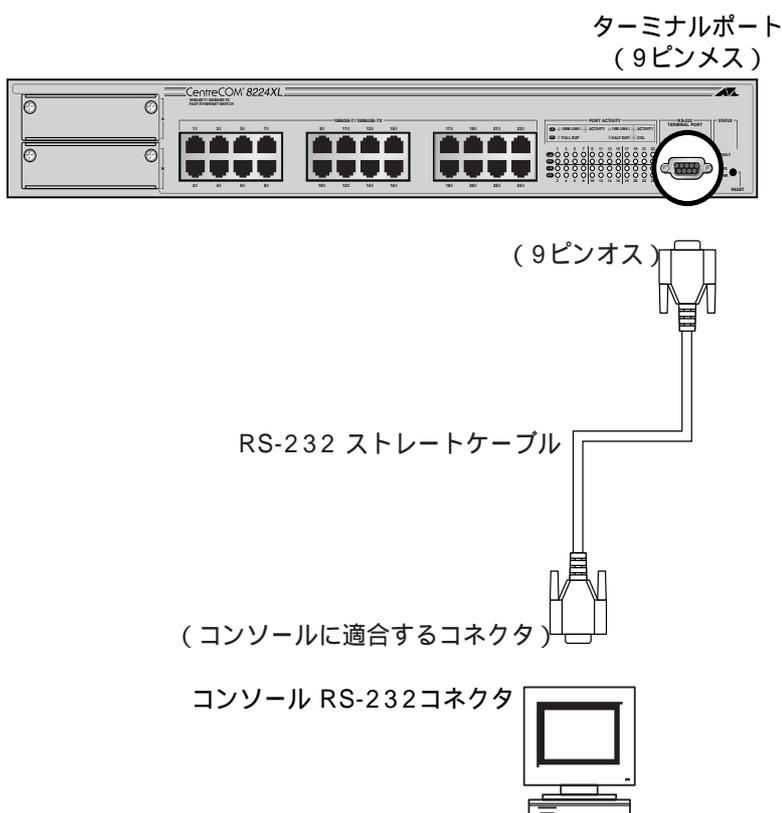
コンソール

コンソールは、VT-100互換のターミナルエミュレータを実行するRS-232コネクタ付きPCおよびワークステーション、またはRS-232コネクタ付き非同期ターミナルのご使用をお勧めします。

本製品のソフトウェアは、VT-100/ANSI対応と一般的なダム端末対応の2種類のターミナル設定をサポートしていますので、ほとんどすべてのターミナルタイプと互換性を持つことができます。

ケーブル

ケーブルはRS-232ストレートケーブルで、一端が9ピンオスのD-subコネクタで、もう一端がコンソールのRS-232コネクタに適合するものを使用します。

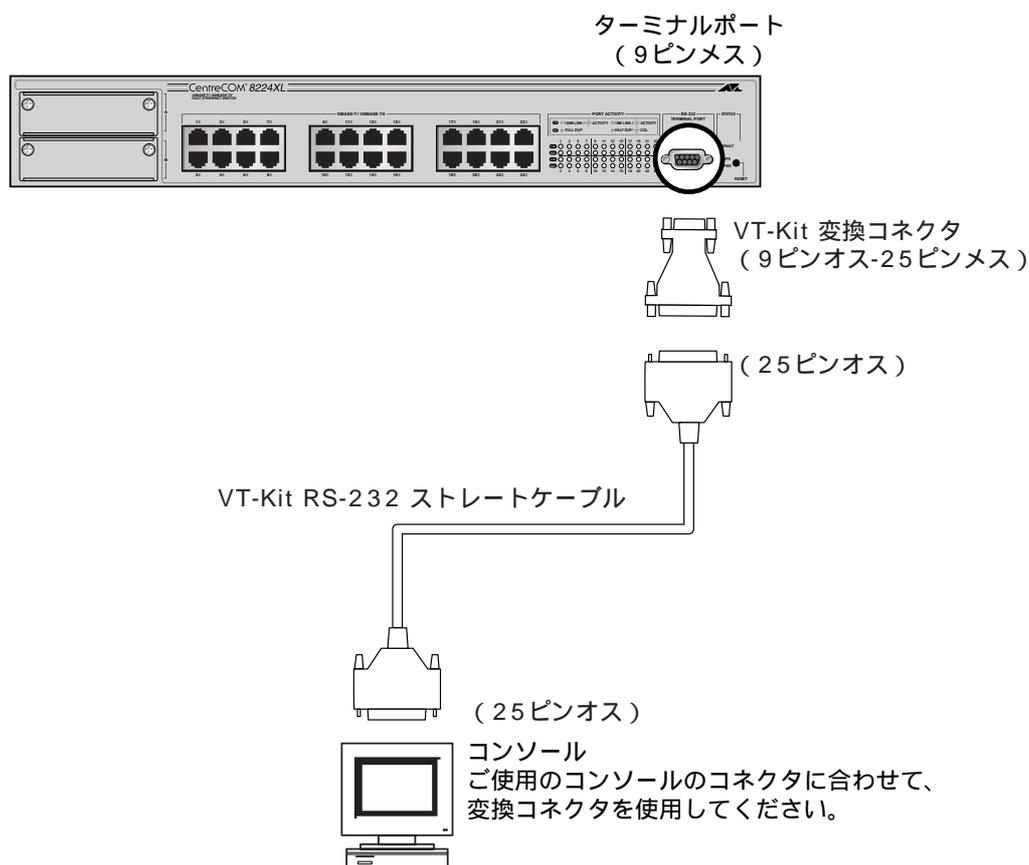


VT-Kit を使用する場合

弊社では、PCをコンソールとして使用するためのVT100エミュレーションとRS-232ケーブルをセットにした商品「VT-Kit」を販売しております。

弊社 VT-Kit を使用する場合は、図のように本製品とコンソールを接続します。VT-Kitは、PC-9800シリーズ、およびIBM-PC/XT/AT、DOS/V、AX機のいずれのPCでもご使用いただくことができます。

- セット内容：
- ・RS-232 ストレートケーブル(25 ピンオス -25 ピンオス)
 - ・各種変換コネクタ
 - ・VTTERM(MS-DOS 版端末エミュレーション)

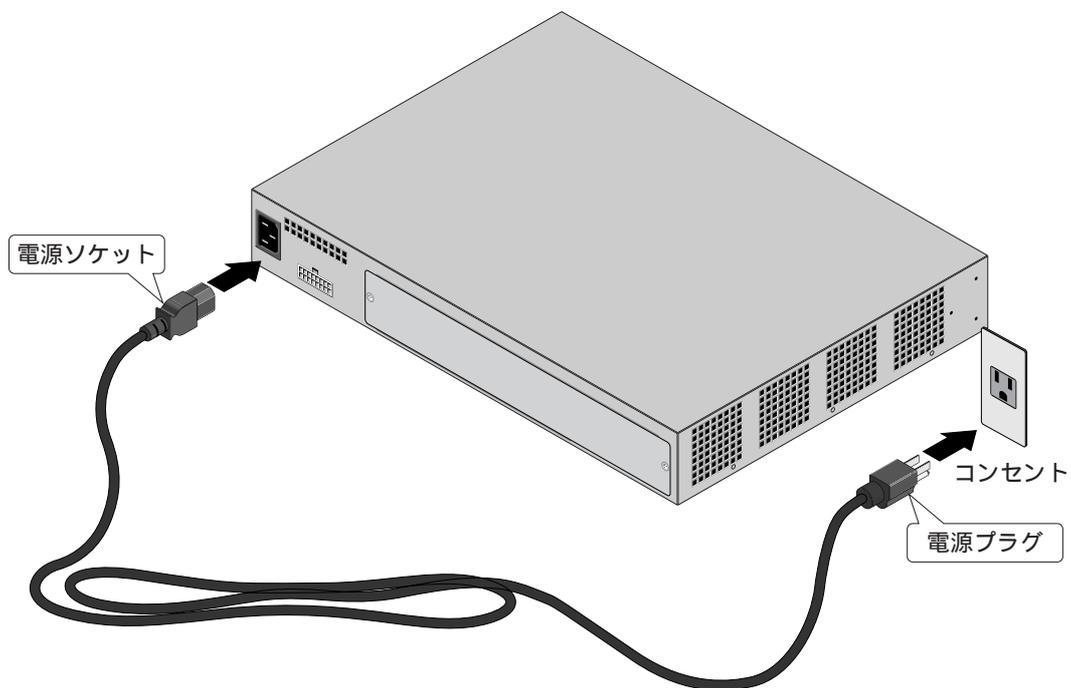


起動と停止

▶ 本体の起動

本製品は、電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

1. 電源ケーブルの電源ソケットを本体背面の電源コネクタに接続します。
2. 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
3. 電源が入ると、本体前面 STATUS LED の PWR LED が緑に点灯します。



電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
電源プラグに電源コンセントを接続したまま、電源ソケットを抜かないでください。

⚠ 本製品を AC100 ~ 120V で使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。
また、指定された電源電圧以外で使用しないでください。
不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

3

付録

この章では、トラブルシューティング、オプションの拡張モジュールの仕様、拡張モジュールの装着手順、製品仕様について説明しています。

1 トラブルシューティング

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの対処方法について説明します。以下の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。

セルフテストについて

本製品は、セルフテスト機能(自己診断機能)を備えており、万が一異常が発生したときには、そのテスト結果を本体内蔵のソフトウェアの「Diagnostics」画面に表示し、異常の内容に応じて動作を制御します。

 Diagnosticsメニューについては、「オペレーションマニュアル」で説明します。

セルフテストの実行

セルフテストは次の場合に実行されます。

- ・ 電源を投入したとき
- ・ 本体前面リセットボタンを押してリセットしたとき
- ・ 本体内蔵のソフトウェアを使用してリセットしたとき
- ・ 致命的エラーによって自動的にリセットしたとき

テスト項目

テスト結果に表示されるセルフテスト項目は次のとおりです。テスト結果は、「Good」または「Failed」で表示されます。

- ・ Flash PROM
- ・ RAM
- ・ シリアルインターフェイス

 「Diagnostics」画面は、本体内蔵のソフトウェアにTelnet経由でアクセスしている場合は表示されません。

トラブルと思ったら

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルやLEDの状態を確認のうえ、該当の説明をお読みください。

LED 表示の確認

PORT ACTIVITY LED

各ポートの状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
L/A (Link/Activity)	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットを送受信しています。
	-	消灯	リンクが確立されていません。
D/C (Duplex/Collision)	緑	点灯	Full duplexで通信しています。
	橙	点灯	Half duplexで通信しています。
		点滅	コリジョンが発生しています。
	-	消灯	リンクが確立されていません。

STATUS LED

システムの状態を表示します。

LED	状態	表示内容
FAULT (赤)	点灯	システム、または内蔵ソフトウェアが故障しています。
	点滅	セルフテスト実行中です。(起動時) FLASH ROMに書き込みを行っています。(運用時) XMODEM経由でファイルを転送中です。
	消灯	システムに異常はありません。
RPS (緑)	-	RPSはサポートされていないため常に消灯。
PWR (緑)	点灯	本体に電源が供給されています。
	消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。

電源を投入したが、PWR LED が点灯しない

- 電源ケーブルが、正しく接続されていますか。
- 電源ケーブルに断線等はありませんか。
AC100V、50/60Hzの電源電圧で使用する場合は、必ず、同梱の電源ケーブルを使用してください。
- 指定された電源電圧を使用していますか。

ネットワークケーブルを接続しても LINK LED が点灯しない。

- ケーブルがしっかりと接続されていますか。
- ケーブルに断線等はありませんか。
- ポートに接続されているケーブルのタイプは正しいですか。
UTP ケーブルにはストレートタイプとクロスタイプがあります。本製品と PC やワークステーションなどの端末 (MDIポート) を接続する場合は、ストレートタイプを使用してください。本製品とリピータやスイッチ (MDI-Xポート) を接続する場合は、クロスタイプを使用してください。
- 接続先の機器に電源は投入されていますか。
- 端末に取り付けられているネットワークインターフェイスカードに障害はありませんか。
- 通信モード・通信速度の設定は対向機器と通信可能な組み合わせになっていますか。
- FAULT LED は点灯していませんか。
本体に異常が発生した場合は、FAULT LED は点灯したままになります。
本体前面のリセットボタンを押す、または内蔵ソフトウェアの「Administration」メニューの「Reset and restart the system」を選択してリセットを行うか、電源ケーブルを接続しなおしてください。
それでも、FAULT LED が点灯したままとなる場合は、アライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。
- 内蔵ソフトウェアの設定で、ポートがDisabled (使用不可) に設定されていませんか。
「Port status and configuration」メニューの「Port Status Menu」画面でステータスを確認してください。

2 拡張モジュール

本製品には、拡張モジュール(別売)が用意されています。本製品の拡張モジュール用スロットに装着可能で、アップリンクとしてデバイス間的高速接続が可能になります。

AT-A17

AT-A17は、SCコネクタタイプの100BASE-FXポートを2ポート装備しています。

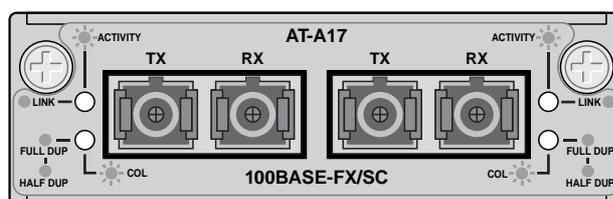
項目	仕様
外形寸法	81.0mm (W) x 25.5 mm (H) x 181.0 mm (D)
重量	125g

LED表示

LED	色	状態	表示内容
LINK ACTIVITY	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
	-	消灯	リンクが確立していません。
FULL DUP HALF DUP COL	緑	点灯	Full duplexで通信しています。
		点灯	Half duplexで通信しています。
	橙	点滅	コリジョンが発生しています。
		-	消灯

仕様

項目	仕様
通信方式	IEEE 802.3u 100BASE-FX
コネクタ	SC 2芯
通信速度	100Mbps
通信モード	Full duplex (デフォルト) / Half duplex
ケーブル	50/125 μm または 62.5/125 μm マルチモード光ファイバ
最大ケーブル長	412m (Half duplex) 2000m (Full duplex)



AT-A17
100BASE-FX × 2ポート

2 拡張モジュール

AT-A18

AT-A18 は、10BASE-T/100BASE-TX 自動認識ポートを 4 ポート装備しています。

項目	仕様
外形寸法	81.0mm (W) x 25.5 mm (H) x 181.0 mm (D)
重量	140g

LED 表示

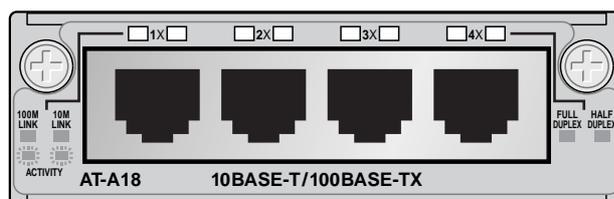
LED	色	状態	表示内容
100M LINK/10M LINK ACTIVITY	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットを送受信しています。
	-	消灯	リンクが確立していません。
FULL DUPLEX HALF DUPLEX	緑	点灯	Full duplexで通信しています。
	橙	点灯	Half duplexで通信しています。
	-	消灯	リンクが確立していません。

3

付録

仕様

項目	仕様
通信方式	IEEE 802.3 10BASE-T/IEEE 802.3u 100BASE-TX
コネクタ	RJ-45
通信速度	10Mbps/100Mbps (自動認識)
通信モード	Auto negotiate (デフォルト) /Full duplex/Half duplex
ケーブル	UTPカテゴリ5 (10BASE-Tの場合は、UTPカテゴリ3以上)
最大ケーブル長	100m



AT-A18
10BASE-T/100BASE-TX x 4ポート

3 拡張モジュールの装着手順

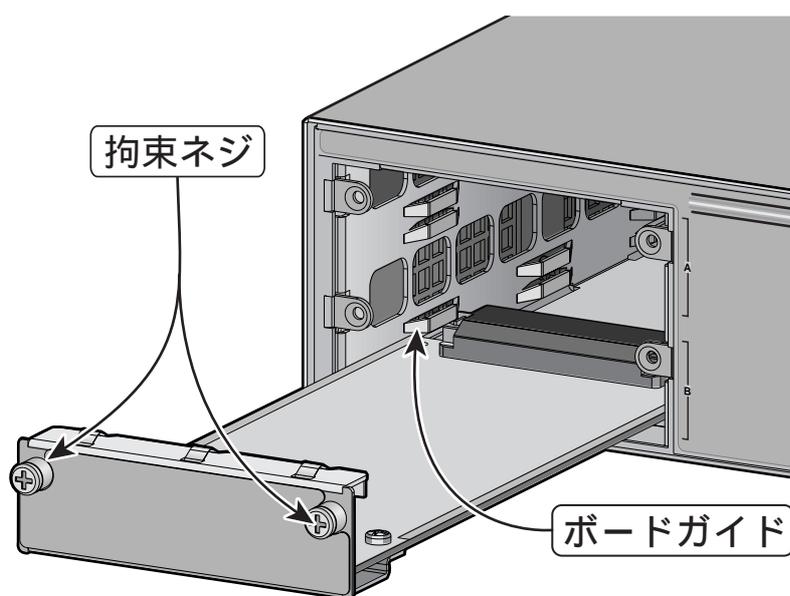
⚡ 拡張モジュールの取り付け・取りはずし作業は、必ず、本体の電源ケーブルを抜いて、電源を切ってから行ってください。感電のおそれがあります。

! 拡張モジュールは、静電気に非常に敏感な部品を使用しています。静電気によって、電子部品が損傷するおそれがありますので、取り扱いの際は、アースストラップを使用するなどの静電防止対策をして、ボード部分にはできるだけ手を触れないようにしてください。また、保管するときは、拡張モジュールが梱包されていた静電防止袋に入れて、静電気のある場所を避けてください。

1. 本体の電源ケーブルを抜きます。
2. 本体前面拡張モジュールスロットのカバーパネルのネジをドライバでゆるめて、カバーパネルをはずします。

! カバーパネルは、拡張モジュール装着するとき以外ははずさないようにしてください。

3. 拡張モジュールのボード部分を、スロットのボードガイドにそって差し込みます。
このとき、ボード部分には手を触れず、前面パネルを持って取り付けを行ってください。



4. 拡張モジュールの前面パネルが本体の前面パネルとそろう位置まで、拡張モジュールを押し込みます。

3 拡張モジュールの装着手順

5. 拡張モジュールの拘束ネジをドライバでしめます。
6. 拡張モジュールが本体に固定されたことを確認します。
7. 電源ケーブルを接続します。
 2-6 ページ「起動と停止」
8. 以上で、拡張モジュールの装着が完了しました。

拡張モジュールを取りはずす場合は、拘束ネジをドライバでゆるめ、前面パネルを持ってゆっくと引き抜きます。

拡張モジュールを装着していないときは、拡張モジュール用スロットにカバーパネルを取り付けておいてください。

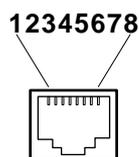
4 仕様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクタのピンアサインなどを説明します。

コネクタの仕様

10BASE-T/100BASE-TX インターフェイス

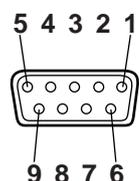
コネクタは、RJ-45型(RJ-45 8pin ハーモニカタイプ)と呼ばれるモジュージャックを使用しています。



コンタクト	MDI信号
1	TD+ (送信)
2	TD- (送信)
3	RD+ (受信)
4	未使用
5	未使用
6	RD- (受信)
7	未使用
8	未使用

RS-232C インターフェイス

コネクタは D-Sub 9pin(メス)タイプを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	NOT USED	未使用
2	TXD (TD)	送信データ
3	RXD (RD)	受信データ
4	DSR (DR)	データセットレディ
5	SG (SG)	信号用接地
6	DTR (ER)	データ端末レディ
7	CTS (CS)	送信可
8	RTS (RS)	送信要求
9	NOT USED	未使用

ケーブル仕様

10BASE-T/100BASE-TX ケーブル

10BASE-Tでは、カテゴリ3以上の2対4芯UTPケーブル(シールドなしツイストペアケーブル)を、100BASE-TXでは、カテゴリ5の2対4芯UTPケーブルを使用します。

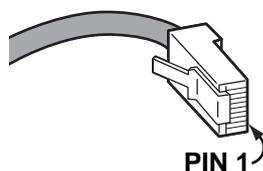
UTPケーブルにはストレートタイプとクロスタイプがあります。

一般的に、ストレートタイプはリピータやスイッチ(MDI-Xポート)とPCやワークステーションなどの端末(MDIポート)を接続する場合に、クロスタイプはリピータやスイッチ同士(MDI-Xポート同士)を接続する場合に使用します。

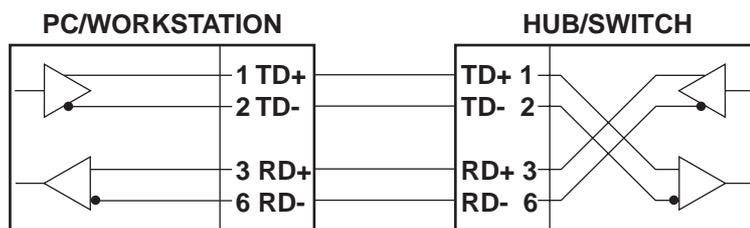
本製品とPCやワークステーションなどの端末(MDIポート)を接続する場合は、ストレートタイプを使用してください。

本製品とリピータやスイッチ(MDI-Xポート)を接続する場合は、クロスタイプを使用してください。

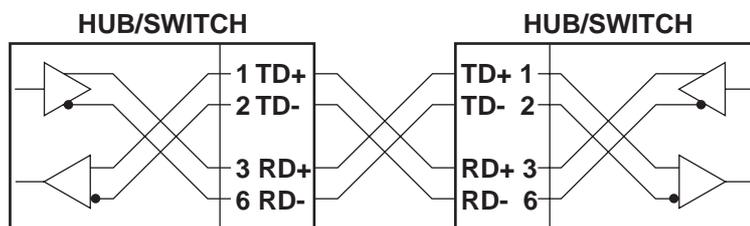
ストレートケーブル結線、クロスケーブル結線は図のとおりです。



ストレートケーブル結線



クロスケーブル結線



ケーブルのカテゴリ

イーサネットで使用するケーブルに関する特性仕様(信号に対する減衰量、インピーダンスなど)は、IEEE802.3 で詳細に規定されています。

特にツイストペアケーブルに関しては、TIA/EIA-568-Aで規定されたカテゴリが参照されています。

カテゴリは、次の表が示すように、1~5に分けられていて、カテゴリの数値が高いほど高い周波数の伝送(つまり高速な通信)に対応します。つまり、カテゴリはケーブルの品質を示す目安を定義したものです。

上位カテゴリは下位カテゴリを包含しますので、カテゴリ5のUTPケーブルを用意しておけば、10BASE-T、100BASE-TX に共通でご利用になることができます。

ツイストペアケーブルのカテゴリ

カテゴリ	ケーブル種別	交流特性	仕様	ツイスト/ft.	10BASE-T	100BASE-TX
1	シールドなし ツイストなし	N/A	CCITT	なし	不可	不可
2	UTP	100 ± 0	RS232 1BASE5 AT&T, PDS	なし	不可	不可
3	通常のUTP	100 ± 5	10BASE-T IBM Type 3	3~5	可	不可
4	拡張UTP	100 ± 30	EIA, TIA 10BASE-T NEMA	5~8	可	不可
5	UTP	100 ± 30	EIA, TIA 10BASE-T 100BASE-T	8~10	可	可

本製品の仕様

機器仕様

外形寸法	約440 (W) x 357 (D) x 66 (H) mm
重量	約6.0kg

動作保証温度	0 ~ 40
動作湿度	80%以下 (結露なきこと)
保管温度	-20 ~ 60
保存湿度	95%以下 (結露なきこと)

定格入力電圧	AC100V ~ 120V/AC200 ~ 240V (切替設定不要)
入力電圧範囲	AC90 ~ 255V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	4.0A (AC100V ~ 120V) / 2.0A (AC200 ~ 240V)
平均消費電力	87W (最大90W AT-A17 2個装着時)
平均発熱量	75kcal/h (最大78kcal/h)

電源ケーブル	AC100 ~ 120V用
電源プラグ	3極プラグ

適用規格	安全規格	: UL1950
	EMI	: VCCIクラスA

サポートする MIB

MIB II	RFC 1213
イーサネットMIB	RFC 1643
ブリッジMIB	RFC 1493
インターフェイス拡張グループMIB	RFC 1573
プライベートMIB	

4

保証とユーザサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

1 保証とユーザサポート

保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みにになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。

「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザサポートなどが受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザサポート

ユーザサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書を(拡大)コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。記入内容などについては、「2 調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772
月～金曜日(祝・祭日を除く) 10:00～19:00
土曜日(祝・祭日を除く) 10:00～17:00

Fax: ☎ 0120-860-662
年中無休 24時間受付

2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

使用しているハードウェア、ソフトウェアについて

製品名、製品のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev):

(例)  S/N 000770000002346 Rev 1A

を調査依頼書に記入してください。

製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に添付されているバーコードシールに記入されています。

ソフトウェアバージョンを記入してください。

ソフトウェアバージョンは、「Administration」メニューの「Diagnostics」にて表示されます。

お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に再現できるように記入してください。

エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

4

保証とユーザサポート

